

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200968		
法人名	合資会社 笑顔とおもいやりの和		
事業所名	グループホーム 和		
所在地	〒002-8024 札幌市北区篠路4条8丁目9番1号		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は左側は公園、右側は畑という立地にあり、四季を感じながら過ごせる環境の中、アットホームな雰囲気大切にしています。入居者様が地域住民としてより一層地域の方々と交流を深めながら過ごせるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170200968-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム 和」は、近隣に篠路神社や遊歩道などがある、自然環境にも恵まれた静かな住宅地に立地している。大きな公園に隣接した2階建ての建物で、1階は同法人の小規模多機能ホームになっている。看護師でもある法人の代表者が管理者を務めており、利用者の健康管理に気を配り、各職員に適切な指導を行いながらケアの資質向上を目指して運営に取り組んでいる。遠方のかかりつけ医の受診にも同行して、主治医と協力しながら各利用者の健康管理を行っており、本人と家族の安心感に繋がっている。近隣住民と散歩で会話を交わしたり、地元の警察官がパトロール中に立ち寄って利用者の様子を聞いてくれるなど、地域との交流も深められている。事業所のお祭りや七夕に地域の子供たちが来訪したり、保育園児が遊戯を披露してくれるなど子供たちとの交流も活発に行われている。管理者は、居室の清掃についての家族からの率直な意見に感謝の気持を持って向き合い、新たに居室担当職員を配置して環境整備に取り組んでいる。外出や外気浴にも積極的に取組み、日々の散歩の他、家族と一緒にぶどう狩りのバス旅行を楽しんだり、冬季もイルミネーション見学に出かけている。献立は、利用者の好みを活かしながら管理者が作成し、季節の豊富な食材を利用した家庭的な食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念の元、管理者と職員は理念を共有し実践に繋げている。	事業所理念として掲げる3項目の中に、地域密着型サービスを意識した文言が含まれている。共有玄関をはじめ、事業所内の数か所に掲示している。管理者は、職員採用時に説明したり、全体会議で理念に沿って話をする機会がある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、町内会の清掃に参加したり事業所の行事の際には町内の方に参加の声掛けをしたり日常的に広陵している。	散歩の時に近隣の方と話をしたり、お花を戴くこともある。事業所のお祭りや七夕に子供たちが来訪して、利用者と交流している。保育園児が遊戯を披露してくれる機会もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長の協力にて行事参加や訪問の働きかけをしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1度行い、町内会長及び民生委員、地域警察官、包括職員が参加し、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	家族に電話をした機会に、会議の案内や出席を依頼し、小規模多機能ホームと合同で開催している。地域包括支援センター職員から、健康管理や転倒予防などの方法などを教えてもらっている。家族への議事録の送付は、今後検討していく意向である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市町村長担当者と連絡を取り、協力関係を築くようにしている。	管理者は、おむつサービスや介護保険の区分変更手続きで区役所を訪問している。保護課の担当者にも、利用者のことで相談することもある。書類は郵送することも多いが、何かあればすぐに電話で相談するなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準を理解し、身体拘束行為項目を掲示して拘束しないケアに取り組んでいる。	「身体拘束廃止の対象となる具体的な行為」をマニュアルとして、事務コーナーに掲示している。外部研修後に全体会議で報告研修を行い、職員間で情報を共有できるように取り組んでいる。管理者は、利用者が出かけようとした時も、本人の気持ちになって声かけに配慮するように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされる事がないように注意、防止に努めている。		

グループホーム 和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用経験はあり、家族に必要性を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかり説明を行い、理解や納得を図っている。又、その後も本人や家族の疑問、不安がないかフォローしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で声掛けを行い、意見を表せる機会を設けている。	管理者は、家族と直接電話で話す機会が多く、何かあれば意見や提案を聴き取って全職員に伝えている。居室のクローゼットにあるほこりについて意見をもらい、新たに居室担当職員を決めて責任を持って環境整備ができるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にスタッフカンファレンスを行い、意見や情報を交換している。	2か月毎の小規模多機能ホームとの全体会議と、事業所独自のカンファレンスを行っている。職員からの提案で、午後の活動を充実させるために入浴時間の変更などを行っている。管理者は、何かあれば職員と個別に話しをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	世論のニュース等に耳を傾け、情報収集に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人、一人の力量を把握し、勉強会や講演会があれば参加確認を行い、トレーニングが出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の場を持ちたいがなかなか、機会がなくていけない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の現状、気持ちの把握に努め、本人からの訴えを待つだけでなくスタッフからも声掛けを行うようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望、不安などをしっかり確認するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始に伴い、本人と家族の話をよく聞き、見極めた上で適した対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を見つけ、人生の先輩として話を聴いたりする事で関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には必ず声掛けを行い、状態の報告をし、不安や心配が内科を聴き共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人でもいつでも訪問し関係を大切に出来るように努めている。	自宅近くの知人や同級生などが来訪することもあったが、現在は少なくなって来ている。職員と一緒に散歩に出かけて、馴染みの神社に立ち寄り、近所の友人宅に顔を出して来ることもある。事業所のクリスマス会には、友人も招待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合える環境を作ったり、1F(小規模多機能ホーム)へ訪問し関わりが持てるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も状況確認をしたり、本人や家族から相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送りや定期的に担当者会議を行い検討している。	利用者により、会話で意思疎通が出来ない時もあり、本人の行動や仕草などから推察する事もある。入居から今までの支援経験を活かしながら、職員間で検討して意向に沿えるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人又は家族から情報をもらい、申し送りや記録にてスタッフ全体が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで情報交換を行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的担当者会議を行い、介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心に、全職員で検討して3か月毎に介護計画を見直している。各利用者の定期的なアセスメントの更新と介護計画に沿った日々の記録が十分とは言えず、課題が残されている。	各利用者のアセスメントを定期的に更新して、情報を蓄積するように期待したい。また、介護計画に沿って日々の記録が行われるように期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の充実に努めながら情報共有を行い、実践や計画に生かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズを理解し対応して、柔軟な支援、サービスに取り組むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の資源回収に資源提供している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診は月2回行っている。本人や家族の要望、状態に応じて病院各科の受診をしている。	かかりつけ医や専門医の受診は、殆ど事業所で支援しているが、検査などがある時は家族も同行している。受診記録は介護支援経過に記録しているが、今後、医療記録のみ別記載にすることも考えている。	

グループホーム 和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に情報や気づきを伝え、相談しながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ行ったり、電話などで情報交換を行い、関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期介護の経験はないが時に直面した際は家族、往診医療等と相談、協力の元行う。	利用者の健康状態の変化に応じて、家族の意向を確認しながら、主治医の方針の下に可能な限り事業所で対応している。主治医と家族の協力が得られれば、看取りにも対応したいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々、予測される急変や事故について話し合い看護師からのアドバイスの元、対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。全スタッフ他、地域の型にも参加してもらい協力体制を築いている。	9月に、小規模多機能ホームと合同で、消防署の協力の下に地域住民も参加して夜間想定火災避難訓練を行っている。2月にも、自主訓練を予定している。災害備蓄品は、他の事業所に置いてあるため、当事業所に整備する予定である。	火災以外の地震災害などを想定して、ケア別の対応を職員間で確認する機会を持つように期待したい。また、計画的に職員の救急救命訓練の受講を進めるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシーを損なわないよう、言葉かけや対応に努めている。	本人の気持ちを尊重した対応を心がけている。気になる言葉かけがある場合は、管理者が直接注意をしている。利用者とプライバシーに関わる話をする際は、居室などで行うように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が重いや希望を自己決定できるような声掛けやコミュニケーションをとるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状況、状態を見極め、希望などを確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着用したい服、アクセサリなどを聴きながら一緒に選んだりしている。		

グループホーム 和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備を出来る方はいないがゆっくり楽しみながら食事できるようにしている。	献立は、利用者の意向や栄養バランスを考えて管理者が作成している。誕生日や敬老会には祝い膳が食卓を彩り、普段の食事もお弁当箱に盛り付けて楽しむこともある。庭先での焼肉なども多く取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師に状態を確認しながら一人一人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の状態に合わせたトイレ誘導などの排泄支援をしている。	利用者全員分の排泄チェックを行い、個々のパターンを把握している。自力でトイレに行ける場合もさりげなくサポートして、用品類を適切に使用できるようにしている。トイレ誘導後に衣類を上げ下げする場合も、羞恥心などに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や運動を行い、予防に取り組んでいる。又、看護師が水分量の調整をしたり腹部マッサージなどの対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めているが体調や気分、排泄状況により日時を変更している。	午前中に入浴に対応しているが、衛生面で必要な場合などは、その都度支援している。利用者の介護度に応じて、リフト浴のある小規模事業所で入浴をする場合もある。拒否の場合は、本人のタイミングを見ながら、再度入浴の声かけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状態を考慮し環境整備や寝具に配慮し眠れるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理のもと、服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴を把握し歌会やDVD鑑賞、散歩のレクリエーションの他、お手伝いをお願いして喜びや楽しむ日々を過ごせるよう支援している。		

グループホーム 和

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に応じ、出かけられるよう支援している。	散歩は周辺にある公園へ出かけたり、神社へお参りに行くこともある。北大の銀杏並木やイルミネーション見学、雪化粧したナナカマドを見るなど、ドライブにも積極的に出かけている。バス旅行は家族を誘って、ぶどう狩りを楽しんでいる。事業所のベランダで外気浴も行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、所持できる方は所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけられる入居者はいないがかかってくる場合や希望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招くような刺激がないよう配慮している。季節感を感じられるよう掲示などの工夫をしている。	外玄関にはスロープがあり、車椅子でも出入りがし易い造りである。2階に事業所があり、幅の広い階段の他にエレベーターを設置している。居間は明るく、利用者が手を合わせる神棚があり、外の景色をゆっくりと楽しめるベランダもある。ダイニングに繋がる位置に作業しやすい大きな配膳台がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下奥にくつろげるよう椅子を置き、自由に過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの物を持参してもらい家族と本人の好みで配置してもらい居心地良く過ごせるようにしている。	居室には備え付けのクローゼットが完備され、家具やベッドは、好みの物を持ち込んでもらっている。お気に入りのぬいぐるみが飾られていたり、仏壇を置いている方もいる。季節の寝具類の入れ替えは家族の協力も得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	誰でもわかるような環境作りに努め、自由に生活できるように工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム 和

作成日：平成 26年 12月 22日

市町村受理日：平成 27年 2月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	全職員で介護計画の見直し、検討を行っているが介護記録に生かされていない。	全職員が介護計画に対する必要性、重要性を理解し介護記録に生かしながら充実に努める。	計画作成者が計画を完成した時点で全職員に内容を確認してもらい、修正や改善を行います。申し送りやカンファレンス時に各記録の見直しを行い、意見交換しながら記録充実に努めていきます。	6～12か月
2	35	火災以外の災害に対する想定訓練を行っていない。また、職員の救急救命訓練の受講をしていない。	火災以外の災害想定訓練も全職員で話し合い、訓練実施していく。また、救急救命講習に参加する。	定期的な避難訓練実施の計画時に火災以外の災害想定し、話し合い訓練していく。近隣の消防所などで行っている講習会日程を確認し、参加を呼び掛けます。また、看護師による緊急時対応の勉強会を行います。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。